

団体名		一般財団法人武蔵野市給食・食育振興財団						
① 事業	指標名	食育事業(むさしの給食・食育フェスタ、小学校給食体験講座、夏休みコミュニティ食堂) 参加者数の前年度比増			目標値	平成29年度比増	実績値	(フェスタ)約1,000人 (講座)44人 (コミ食)268人
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	282.2%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位: 人)	(フェスタ)302 (講座)29	(フェスタ)312 (講座)38	(フェスタ)334 (講座)36 (コミ食)157				
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <p>平成30年度は、給食・食育フェスタの会場を初めて中央地区に移し、クリーンセンターにおいて11月に開催した。子どもから大人まで楽しめるようなプログラムを用意した。広報にも力を入れ、前年度と同様商店会連合会にチラシを置いていただき、近隣のスーパーにポスターを掲示していただく等他、今年度は近隣地域(緑町・吉祥寺北町の一部)にチラシのポスティングを行った(約2,700部)。</p> <p>小学校給食体験講座は、小学校入学前の保護者に対し小学校を「食」の観点から知ってもらうために、市子ども政策課・教育委員会で共催する事業である。平成30年度は前年度と同じく2回とし、プログラムを工夫して実施した。</p> <p>夏休みコミュニティ食堂は、夏休みに食事を介した交流の場を作り出し、また子どもたちの栄養面でのサポートを行った。3ヶ所のコミュニティセンターを利用し5回実施した。</p>						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>体験型イベントである給食・食育フェスタは、児童生徒から大人まで幅広い年代層の参加を得ており、またクリーンセンターは市庁舎や市民公園に近く集客に好影響があったうえに天候にも恵まれ、前年度の約3倍と大幅に増加した。小学校給食体験講座は「食」について学んでもらうことを目的に様々なレシピ紹介を行った。開催回数は2回で変更なく、総参加者数は微増した。夏休みコミュニティ食堂は、コミュニティ協議会との共催で回数を増やして(3→5)開催し、参加者数は約70%の増であった。</p>						
	二次評価	<p>いずれの取組みも参加者が増えており、特に給食・食育フェスタは会場を中央地区に移した影響が、大幅に増加していて、多くの方に対して給食・食育に対して興味を持つ機会が提供できた点を評価する。今後も、会の回数や時期、場所、内容等の精査を行いながら、さらなる参加機会の拡大に努めていただきたい。</p>						
② 財務	指標名	学校給食提供コストの前年度比減			目標値	平成29年度比減	実績値	501円
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	101.2%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位: 円)	508	527	507				
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約等の見直しによる物件費の削減 ・適正な職員数の把握及び維持 ・市派遣職員の配置換え等による減員に伴う財団職員への移行 						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <p>前年決算対比で、欠員の嘱託・臨時職員代替等による人件費の減少や修繕費等の物件費の減はあったが、育休復帰による人件費増や退職給付の増加により、給食提供等に係る経費総額は前年度より微増した(なお、本宿・三小親子給食や新桜堤調理場の準備に係る経費はイニシャルコストとして除いている。)。年間給食実施日数は1回減となったが、児童・生徒数が増加したため、年間の給食数も微増となった。結果として、1食当たりの提供コストは微減となっている。</p>						
	二次評価	<p>人件費等の増の要素もある中で、1食当たりのコスト減が達成できたことを評価する。今後も適正な人員配置や事業等の見直しに努めながら、安全・安心を第一に、かつ、廉価な給食の提供に努めること。</p>						
③ 内部	指標名	執行体制の簡素・効率化 (市派遣職員の財団固有職員への段階的な移行)			目標値	(市派遣)1人 (固有昇任)1人	実績値	(市派遣)0人 (固有昇任)1人
	過去の実績	平成27年度	平成28年度	平成29年度	達成率	50.0%	達成状況	未実施・未達成・達成
	(単位: 人)	(市派遣)3 (固有昇任)5	(市派遣)△1 (固有昇任)3	(市派遣)1 (固有昇任)2				
	取組内容	<p>※H30年度中の目標達成のための具体的な取組内容等について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の安全及び調理等のレベルを維持することを前提に、段階的に市派遣職員を削減し、財団固有職員へ移行する。4月1日付で財団固有職員1名を技能主任に昇任させた。また12月に主任昇任試験を実施した。 ・将来の組織の在り方がまだ明確ではないので、財団固有職員の昇任スピードについては当面、慎重に対応する。技能長については財団固有職員を抜擢するには経験が不足しているため、当面、市派遣職員を配置する。なお平成29年4月に市派遣職員が2名技能長に昇任し、北町調理場・桜堤調理場ともに調理部門の係長を置くこととなった。 						
	一次評価	<p>※目標の達成状況・要因・今後の取組方針等について記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採用後5年以上の財団固有職員を施設の調理現場の責任者である技能主任とし、該当施設の状況を常に把握させ、また技能主任としての業務能力の向上のために教育・指導することが必要となる。平成31年3月31日現在で調理部門の財団技能主任が10名に達し、また全体としては共同調理場(2か所)に各3名以上、単独調理校(4か所)に各1名以上の技能主任を配属させている。 						
	二次評価	<p>平成30年度は、市派遣職員の減には至らなかったが、財団固有職員は1名昇任し、責任ある役割に就く職員は財団内において着実に育ってきていると言える。市派遣職員及び財団固有職員それぞれの役割の明確化を図りながら、将来的な組織の在り方について検討されたい。</p>						